

JR白山駅周辺地区

(新潟県新潟市)

- 計画期間 平成20年度～平成24年度
- 面積 42.5ha
- 交付対象事業費 1,332百万円
- 市人口 776,468人

ポイント

人々が交流するまちづくり

地区概要

白山市場などの既存の交流拠点施設を活性化させ、さらに JR 白山駅の交通結節機能の強化をし、交通アクセスの利便性の向上や、地区内のバリアフリー施設の整備により、快適な歩行者空間を確保することで、地区内外からの利用者の増加を目指す。

目標

- 交流施設などの活性化
- 交通結節機能の強化
- 歩行者の安全性・利便性の向上

指標

白山市場の出店数

白山市場の利用者数、出店数増加により、地区内の活性化を図る。

まちづくり活動の参加人数

地区内におけるまちづくりへの気運がさらに高まることで、拠点施設の活性化や地区内の賑わいに繋げる。

アクセス時間の短縮

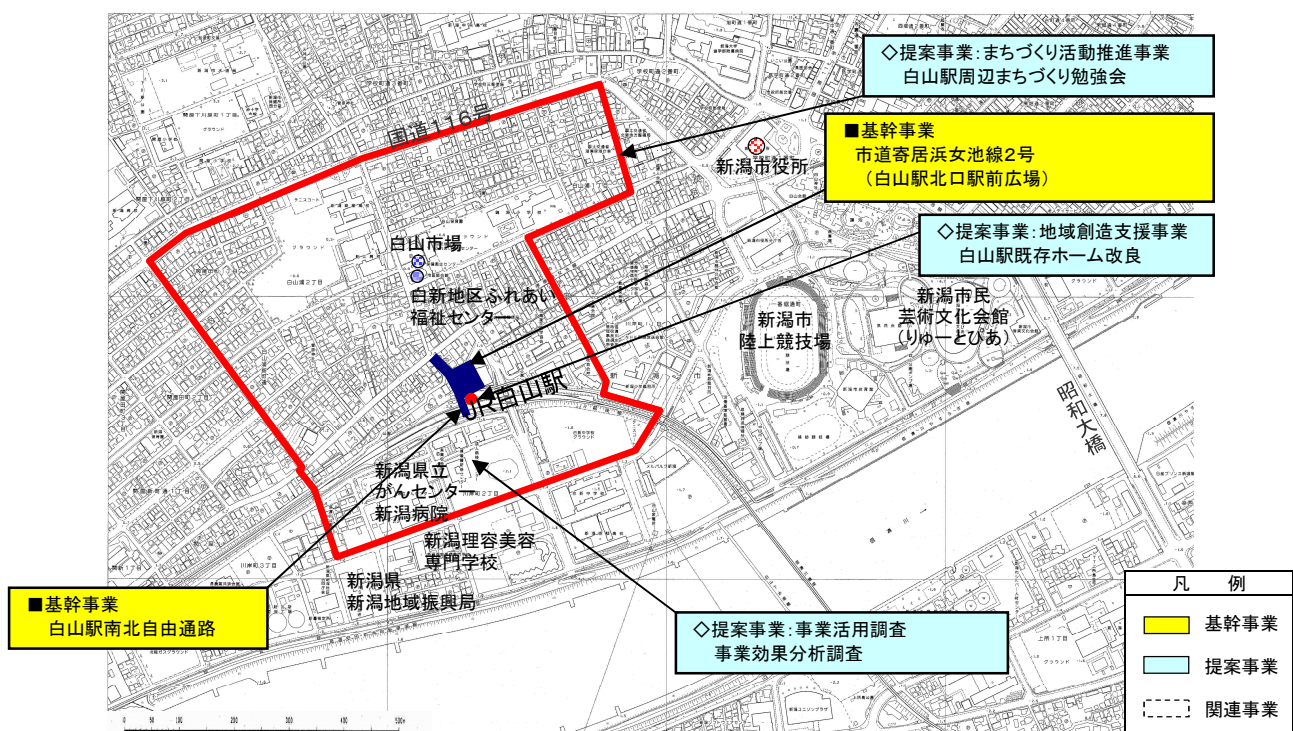
交通結節機能の強化により、白山駅から周辺施設への移動の利便性向上を図る。

項目	現況値 (年)	見込み値 (年)	実績値 (年)
白山市場の出店数	43店舗/日 (H18) → 50店舗/日 (H24)	21店舗/日 (H24)	
まちづくり勉強会開催回数	0回/年 (H18) → 2回/年 (H24)	4回/年 (H24)	
アクセス時間の短縮	6分 (H18) → 3分 (H24)	3分 (H24)	

事業内容

基幹事業 (1,248 百万円) → 道路 (2 路線 幅員 6～20m、延長 95m)

提案事業 (84 百万円) → 白山駅周辺まちづくり勉強会、事業効果分析調査、白山駅既設ホーム改良



地区の現況と課題

当地区は信濃川と日本海、関屋分水に囲まれた、多くの公共施設や業務施設等が集積する地区である。

JR 白山駅の周辺には、新潟県立がんセンター病院などの医療施設や白新地区ふれあい福祉センターなどの高齢者等が多く利用する施設が集積しているが、歩行空間の連続性が確保されていない箇所がある。地元からは白山駅の南北を結ぶ自由通路の設置により、南側から直接、駅利用が可能になるよう要望がなされている。

また、白山市場は約 40 店舗が並び、地元住民で賑わっているが、今後さらなる活性化を図り、白山地区内外からの利用者を増やすため、現在検討されている白山地区と、新潟駅周辺地区や古町地区とを結ぶシャトルバスの運行などを活用していく必要がある。

提案事業の特徴

白山駅周辺まちづくり勉強会

白山駅を中心として、白山市場や白新地区ふれあい福祉センターなどの周辺の施設と連携や、施設の維持管理等について、ワークショップ等を通じて住民の意見等を広く収集し、まちづくりの方針を検討する。

白山駅既存ホーム改良

白山駅駅前広場整備に支障となる既設駅舎の撤去・新設に伴い、既設ホーム部と新設駅舎（半地下）を接続するための改良（工事）を行うほか、エレベータ等を設置する。

計画策定プロセス

白山駅北口駅前広場、自由通路における地元要望等

地元要望や陳情、市政懇談会、市議会等で多くの早期整備要望、意見等がなされている。

「新潟都市圏の都市交通のすがた」策定を踏まえて

新潟都市圏の総合都市交通計画である「新潟都市圏の都市交通のすがた」は、第 3 回パーソントリップ調査を踏まえ、平成 16 年度に策定されたものである。その中で JR 白山駅は、公共交通網の要の一翼を担い、交通結節機能を強化し、乗換利便性の向上を図る地区と位置付けられていることから、この計画を考慮し、本計画を策定した。

地元コミュニティ協議会

地元コミュニティ協議会においては、当地区のまちづくりに対する気運が高まっており、勉強会の開催等が求められている。今後は、地元住民と協力し、勉強会での提案等を生かし、地区内外の交流をより活性化を図る。



整備前の JR 白山駅北口駅前広場



現在の JR 白山駅北口前広場



整備前の市道（中央）2-67号線



現在の市道（中央）2-67号線



白山駅まちづくり勉強会